令和４年度薬剤部実績

伊藤　陽一

令和４年度は、４月 11 名体制でスタートし、10 月からは１名産休入りし薬剤師 10 名＋事務補助１名で　３月からは薬剤師９名で業務を行った。

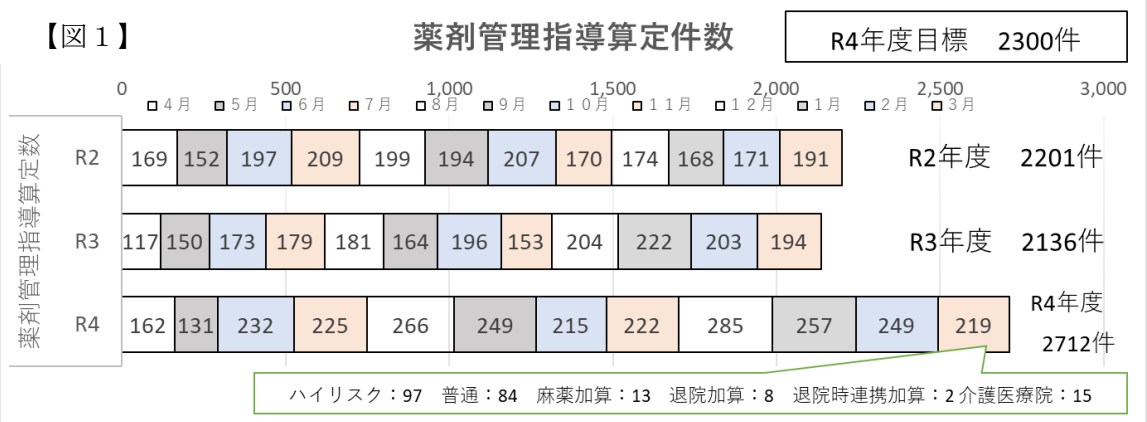
薬剤管理指導の充実、後発医薬品への切替推進、小集団活動における業務効率化等に取り組んだ。主な業務実績は以下のとおりである。

１　薬剤管理指導業務

「入院患者全員にかかわろう」という目標で積極的に薬剤管理指導業務に取り組んだ。**2712 件/年と昨年度比 127%**を達成し、目標の 2300 件も大きく上回った（図 1）

算定率についても大きく上昇した。4 月 5 月は全国ベンチマークを下回る 50%台であったが、**6 月以降はすべての月で BM を上回り** 80%を超える月もあった。（図 2）

【図１】



【図２】**薬剤管理指導算定率**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
当院	59.1%	54.1%	70.7%	66.2%	74.8%	75.8%	65.8%	86.4%	84.2%	84.7%	77.8%	75.2%	72.9%
BM	66.7%	64.1%	67.4%	60.9%	64.3%	64.7%	64.0%	64.7%	68.9%	70.6%	70.5%	72.4%	66.6%

２　注射薬払出システム（ソルブシステム）の導入

５ 月にバーコードリーダー認証による注射薬払出システム（以下ソルブシステム）を導入した。注射薬取り揃えのミスゼロが可能となり**安全性の向上**を図った。また、病棟定数からの使用について、請求伝票などの必要なく薬剤部に請求される仕組みとなり、**看護師の業務軽減**にもつながった。

３　医療安全に対する取組

令和３年度に取り組んだ「注射用カリウム製剤の安全対策」について、令和４年度開催の県立機構学術研修会にて上條薬剤師が発表し**奨励賞を受賞**した。また令和４年度は**睡眠薬の安全使用についてすべての部署において勉強会を開催**した。睡眠薬は転倒転落や認知症、誤嚥性肺炎のリスクを高めることが証明されている。より安全な睡眠薬の使用に向けた啓発活動を今後も継続して取り組んでいく。

４　疑義照会共有ファイルの作成

一人一人の疑義照会や処方提案等を薬剤部全体の「知」とすべく、疑義照会共有ファイルの運用を開始した。新人のスキルアップや、専門資格を有する薬剤師のノウハウを共有し、薬剤部全体のレベルアップを目指す。令和４年９月から開始し３月までの**6 カ月間で 110 件の事例**が集まった。優秀事例を日本病院薬剤師会プレアボイド報告に提出をしていく。また、院内共有を目的に電子カルテへも優秀事例を掲載して行く予定である

５　一般名処方加算の算定

電子カルテ更新に伴い、一般名処方への自動変換がされるようになり、令和３度まで目視で算定していた実績を伸ばすことが出来た。昨年度合計 **16,860 件（873,200 円）→49,496 件（3,036,260 円）　昨年度比 216 万円の増（347%）**という結果であった（図 3）

【図 3】一般名処方加算実績

	令和３年度	令和４年度
一般名処方加算１（すべて一般名）　7 点	1,510 件	28,073 件
一般名処方加算２（1 品目が一般名）　5 点	15,350 件	21,423 件
算定金額合計（出来高として）	873,200 円	3,036,260 円

６　後発医薬品切替の推進

後発品切替の経営的効果は、切替率と共に購入削減額も目標にして取り組んだ。切替率については年度途中に 90%を割り込み、9 月から後発医薬品使用体制加算を２に変更したが、切替を推進し１月には 90%を回復し１に戻すことが出来た。また、削減額の大きい薬剤を中心に切替を進め、（図 4）の品目を含め **37 品目を後発医薬品へ切り替えた。**

購入額の削減見込み額は下記 11 品目で 2158 万円。経費削減効果は令和 5 年度に顕在化してくる見込みである。

【図４】

2022年度後発切替(薬事委員会承認済)

	先発		後発		先発薬価	後発薬価	年間購入数	薬価差額
1	アバスチン点滴静注用400mg	中外	ベバシズマブBS400mg	第一三共	121,608	54,403	57	3,830,685
2	エルプラット点滴静注液100mg	ﾔｸﾙﾄ	オキサリプラチン点滴静注	第一三共他	29,086	7,644	194	4,159,748
3	ハーセプチン注射用150	中外	トラスツズマブBS150mg	第一三共	34,670	19,118	138	2,146,176
4	レミケード点滴静注用100	田辺三菱	インフリキシマブBS100	NK他	64,480	29,872	58	2,007,264
5	アバスチン点滴静注用100mg	中外	ベバシズマブBS100mg	第一三共	34,289	14,286	116	2,320,348
6	グリベック錠100mg	ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽ	イマチニブ錠100mg	NK他	1,928	247	1,560	2,622,204
7	サムスカＯＤ錠７．５ｍｇ	大塚	トルバプタンOD錠	複数社	1,085	492	2,300	1,364,130
8	リツキサン点滴静注500mg	中外	リツキシマブBS	ﾌｧｲｻﾞｰ他	132,999	79,151	18	969,264
9	ハーセプチン注射用６０	中外	トラスツズマブBS60mg	第一三共	15,090	8,424	104	693,264
10	ゼローダ錠３００	中外	カペシタビン錠300mg	NK他	192	80	5,824	651,123
11	エルプラット点滴静注液５０ｍｇ	ﾔｸﾙﾄ	オキサリプラチン点滴静注	第一三共他	16,012	3,669	66	814,638
							合計	**21,578,844**
	2021年度購入金額		36,714,822					
	後発切替完了後の購入金額		15,135,978					

７　年度末在庫の縮減

1.購入費の削減　および　2.薬価改定に伴う在庫資産減少抑制　を目的に、県立5 病院全体で年度末在庫の縮減に取り組んだ。**機構全体として、昨年度比38,399,819 円（30.0%）の削減、木曽病院として3,176,655 円（13.9%）の削減**を達成した。木曽病院としては過去6 年間で最小の在庫金額であった。(図 5)

【図 5】県立病院　年度末在庫実績

	R3年3月末	R4年3月末	R5年3月末
信州医療C	52,023,983	66,225,892	30,502,992
こころの医療	2,632,469	3,787,224	2,090,615
阿南病院	6,744,644	7,717,314	8,391,252
木曽病院	24,892,339	22,929,116	19,752,491
こども病院	29,015,231	27,133,521	28,655,898
合計金額	**115,308,666**	**127,793,067**	**89,393,248**

８　県立 5 病院薬剤部研修会の開催

木曽病院薬剤部が当番病院として 2 回の研修会を開催した。

第 1 回　講演会「診療報酬改定から見る医療制度改革の方向性～病院薬剤師の対応を考える　現状と課題～」講師　日本血液製剤機構事業戦略部　谷澤正明先生

第 2 回　シンポジウム「各病院薬剤部の取組について～タスクシフト/シェアを含めて～」

業務の質の向上と経営貢献を含めて、薬剤部の役割を再認識し、今後の業務の在り方を考える機会となった。　以上